

学童クラブの量の見込みと確保策について（事務局提案）

1 量の見込みの考え方

（1）低学年は乖離度利用とする

- ・実績値と定員数、将来人口の推移から勘案し、「乖離度利用」の量の見込みが妥当。

（2）高学年は全体の5%とする

- ・これまでの親会議や学齢WGの議論において、高学年で示されているニーズ調査の児童数ほど通うことはないだろうとの意見がある。
- ・実際の学童クラブ運営者からは、利用者は多くないとの意見がある。
- ・区内学童クラブ全体での利用率は約3.3%（59/1,773）となっている。
- ・ただし、今後は要保護児童への対応などが考慮される。
- ・そのため、高学年の占める割合を全体の5%と設定し、その数を量の見込みとする。

2 量の見込み

（1）低学年は乖離度利用、高学年は5%

【全体】 指標（単位）	実績値	定員数	量の見込み【低学年・乖離度+高学年5%】				
	H26	H26	H27	H28	H29	H30	H31
低学年・人/月	1,717	1,850	1,848	1,891	1,891	1,890	1,903
高学年・人/月	59(24)	—	97	99	99	99	100
合計	1,773	1,850	1,945	1,990	1,990	1,989	2,003

【北部】 指標（単位）	実績値	定員数	量の見込み【低学年・乖離度+高学年5%】				
	H26	H26	H27	H28	H29	H30	H31
低学年・人/月	1,074	1,190	1,148	1,174	1,174	1,174	1,182
高学年・人/月	39(14)	—	60	62	62	62	62
合計	1,113	1,190	1,208	1,236	1,236	1,236	1,244

【南部】 指標（単位）	実績値	定員数	量の見込み【低学年・乖離度+高学年5%】				
	H26	H26	H27	H28	H29	H30	H31
低学年・人/月	640	660	700	717	717	716	721
高学年・人/月	20(10)	—	37	37	37	37	38
合計	660	660	737	754	754	753	759

(2) H31 をピークとする補正

【全体】 指標 (単位)	実績値	定員数	量の見込み【H31 ピーク補正】				
	H26	H26	H27	H28	H29	H30	H31
低学年・人/月	1,717	1,850	1,861	1,871	1,882	1,892	1,903
高学年・人/月	59(24)	—	67	75	84	92	100
合計	1,773	1,850	1,928	1,947	1,965	1,984	2,003

【北部】 指標 (単位)	実績値	定員数	量の見込み【H31 ピーク補正】				
	H26	H26	H27	H28	H29	H30	H31
低学年・人/月	1,074	1,190	1,148	1,174	1,174	1,174	1,182
高学年・人/月	39(14)	—	44	48	53	57	62
合計	1,113	1,190	1,192	1,222	1,227	1,231	1,244

【南部】 指標 (単位)	実績値	定員数	量の見込み【H31 ピーク補正】				
	H26	H26	H27	H28	H29	H30	H31
低学年・人/月	640	660	672	684	697	709	721
高学年・人/月	20(10)	—	24	27	31	34	38
合計	660	660	696	711	728	743	759

3 確保の内容

(1) 定員数に対する不足分 (H31 合計－H26 定員数)

	不足数(人)	整備すべき室数 (不足数/40人)
全体	153	3.8
北部	54	1.3
南部	99	2.5

- ・H31 の量の見込みの合計数から、H26 の定員数を引いた数値が不足数 (人) となる。
- ・その不足数を「40 (人)」(学童クラブ 1 室の定員 40 名) で割った数が、不足する学童クラブの室数となる。
- ・北部で 1.3 室、南部で 2.5 室、区全体で 3.8 室が不足する。

(2) 確保策

- ・平成 31 年度までに北部で 1 室、南部で 3 室、合計 4 室の学童クラブ開設を目指す。
- ・既存の学童クラブと児童館の機能強化や、放課後子ども教室などの関係から、学校や教育委員会との連携強化に努める。